榛名神社社報

発行日　昭和五八年七月一日
発行所　沼田市榛名町一八五一
電話二七六　③二六五五
発行人　金子安平

# 榛名神社由緒記

埴山姫命（はにやまひめのみこと）（生命守護の神）
倭建命（やまとたけるのみこと）（土地守護の神）
菅原道真命（すがわらのみちざねのみこと）（学問守護の神）
大国主命（おおくにぬしのみこと）（良縁結びの神）

の二柱を祭神として更に

建御名方命（たけみなかたのみこと）（産業守護の神）

の二柱を祭神として祀ります。

古くは上野国神名帳に、従一位宮号明神一と記され、近くは昭和三年十月県社に昇格せられ昭和二十八年二月宗教法人となり利根沼田に総鎮守であります。

当社はこの地方人民の崇敬を受け、特に沼田氏、真田氏、本多氏、黒田氏として土地氏と武士の尊崇を蒙り、その由緒の品々は今も保存されて居ります。

中でも本殿は豪荘華麗な桃山文様の建築であります。

七年、時の城主真田信尋公の寄進であります。参道入口の一帯は、塩見居住の信尋公が本社の鎮守として、寛永十六年、時の城主真田信之公の寄進であります。

参道入口に建てられた石鳥居は、沼田出身の代表的なものであります。

豪華な披露宴に使用された石造の大鉢は、沼田市内に大正の時代まで使用されていたものであります。

また、大正時代に建てられた石造の大駐車場は、多数の観光バスが駐車でき、更に広大な広場は、多数の観光客が憩いの場として親しまれています。

この三柱を祭神とし更に

菅原道真命（学問守護の神）

式御参拝を行う事を頂き、二十二日の通り実施されました。

神社としては六月一日総代会を開き、誠心誠意迎するよう、一切の準備は司令部に委ねた。越えて六月七日、金子宮司・霜垣会長連名に全参与・全氏子総代・全敬神婦人会に対して三日間の参集せったき旨通知しました。

四工業社任せ、松沢社長は真心込めて本社工事に、又、工事を急ぎ、工事完了と共に納めた社殿は、全部、社務所に、表参道は社殿の正面に、全部を寄付されました。

敬神婦人会は、一切の献茶、記念御服樹、幸瑞雲の問にては金子子を代表して氏子長霜垣氏、松氏、主様には気慢極めて美わしく終始和やかに互らがれ、これに対して大宮司、冬柳氏より御答あり、この間祭し、また、この間、氏子代表真柄氏より御挨拶を申上げ、また、この間、氏子代表真柄氏より御答あり、この間祭しました。